

産地と都民 想いつなげ

市場ぐるみでプロジェクト

東京都中央卸売市場・豊島市場（上中章雄市場、豊島区）では、昨年度から市場ぐるみで「豊島市場の提案 想いつなげる市場へ」プロジェクトに取組んでいる。昨年度は都民と生産者の想いの交流会「豊島市場野菜フェス」などを実施し、今年度は産地、学校、市場の連携により農産物のPRを行う。今月1日に行われた豊島市場まつりでは、「にっこり梨グルメコンテスト」を開催。近隣の製菓専門学校が開始後40分で完売し、好評を博した。今年度はこのほか、近隣大学の学生による小売店での農産物PRイベントなどが行われる予定だ。

同プロジェクトは、産地支援と都民の「食事を楽しむ」生活を市場ぐるみで応援するもの。青果知識を乗せて消費者に提供するとともに、地域の小売店や飲食店を通じて消費者の声を産地につなげていく。これには、同市場の集荷力と販売力強化の狙いもある。

昨年度は、同市場への出荷実績のある4産地からそれぞれ品目をクロースアップし、生産者と消費者の想いつなげる取組みを展開。対象産地・品目は、JA東京島しょ伊豆大島支店のキヌサヤ、JAおきなわ伊江支店の島ラッキョウなど。

この品目を栽培する際の生産者の想いや、同市場で食育コンテストは3種類のメニューを食べて、気に入ったものに投票する

活動をを行う野菜ソムリエが考案したレシピなどを掲載した「豊島市場の提案POP」を作成。青果商組合等を通じて募集した青果小売店、スーパー、レストランの協力店（約30店舗）に今年2月12日～3月16日の間設置。各店では当該品目を店頭販売や食事メニューとして提供した。

一方、消費者からの産地に対する想いを協力店を通じて収集。消費者からは「農薬を減らす努力を応援する」「体に気をつけて」などの激励のメッセージや商品に対する要望などが寄せられた。

3月には野菜フェスとして、区内で生産者と消費者の交流会を開催。生産者からは、「普段聞くことのできない消費者の声を聞くことができた。機会があればこちらから参加をお願いしたい」などと好評に。参加した消費者へのアンケートでは、9割以上が「良かった」「生産者の想いを知って安心感が増した」と回答した。

今年度は、産地・学校・市場が連携して、学生の視点で農産物の魅力をPRする。その第1弾となった「にっこり梨グルメコンテスト」は、栃木県

のJAしおのやと華調理製菓専門学校（台東区）、市場との連携で開催。事前に30人以上の学生が同JAを訪問し、野菜の収穫や袋詰め体験を行い、ナシ園を見学。そのうえで同県オリジナル品種「にっこり梨」のレシピ

を考案。25メニューのうち一次審査を通過した3メニューが市場まつり会場内で提供された。



コンテストは3種類のメニューを食べて、気に入ったものに投票する

「にっこり梨グルメコンテスト」は、栃木県

のJAしおのやと華調理製菓専門学校（台東区）、市場との連携で開催。事前に30人以上の学生が同JAを訪問し、野菜の収穫や袋詰め体験を行い、ナシ園を見学。そのうえで同県オリジナル品種「にっこり梨」のレシピ

を考案。25メニューのうち一次審査を通過した3メニューが市場まつり会場内で提供された。

一次審査を通過したの「にっこり揚げ餃子」「にっこりナシナモンロール」餃子の皮で「にっこり梨入りスイートタルト」で、3品1セット（1セット300円）を300食提供。JAしおのやでは、「学生たちにおのやでは考えつかないメニューを考案してもらった。また、市場まつり

でのイベント開催で「にっこり梨のPRにもなった」と喜ぶ。

今後は東京家政大学（板橋区）の学生が産地や市場、小売店でのインターンシップを行い、学んだ知識を活かして小売店でのPRイベントを企画・開催する予定。上中市場長は「当市場は規模は小さいが、その分地域密着の良さがある。市場が産地と消費者の仲立ちとなって活性化につなげていきたい」と意気込む。